

## 第4回 リニア駅周辺整備デザイン会議 次第

平成30年10月16日（火）午後3時～  
飯田市役所 第2委員会室

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 基本設計検討等について

資料1

(2) デザインノートについて

資料2

4 その他

今後の日程について

5 閉 会

# 第4回リニア駅周辺整備デザイン会議 配置

H30.10.16(火)

飯田市役所 A棟2階 第2委員会室

[敬称略]

飯田商工会議所 飯田市長 飯田副市長 佐藤 健 鈴木弘司 名古屋工業大学 社会学科准教授 座光寺地域関係者 福田富廣 上郷地域関係者 岩崎守倫 上郷北条地域関係者 木下喜文 県リニア整備推進局長 水間武樹 南信州地域振興局長 土屋智則 飯田建設事務所長 坂田浩一

飯田市長 飯田副市長 佐藤 健 鈴木弘司 名古屋工業大学 社会学科准教授 座光寺地域関係者 福田富廣 上郷地域関係者 岩崎守倫 上郷北条地域関係者 木下喜文 県リニア整備推進局長 水間武樹 南信州地域振興局長 土屋智則 飯田建設事務所長 坂田浩一

飯田市長 飯田副市長 佐藤 健 鈴木弘司 名古屋工業大学 社会学科准教授 座光寺地域関係者 福田富廣 上郷地域関係者 岩崎守倫 上郷北条地域関係者 木下喜文 県リニア整備推進局長 水間武樹 南信州地域振興局長 土屋智則 飯田建設事務所長 坂田浩一

飯田商工会議所会頭	○	○	○	○	○	○	○	座光寺地域関係者	随行者 机あり
柴田忠昭	○							福田富廣	
みなみ信州農業協同組合代表理事組合長								上郷地域関係者	
田内 市人	○							岩崎守倫	
長野県経営者協会 飯田支部長								上郷北条地域関係者	
木下博隆	○							木下喜文	
南信州・飯田産業センター専務理事								県リニア整備推進局長	
萩本範文	○							水間武樹	
中小企業団体中央会 下伊那支部長								南信州地域振興局長	
中田教一	○							土屋智則	
飯田観光協会会長								飯田建設事務所長	
中島一夫	○							坂田浩一	
		○	○	○	○	○	○		随行者 机あり

飯田市長 飯田副市長 佐藤 健 鈴木弘司 名古屋工業大学 社会学科准教授 座光寺地域関係者 福田富廣 上郷地域関係者 岩崎守倫 上郷北条地域関係者 木下喜文 県リニア整備推進局長 水間武樹 南信州地域振興局長 土屋智則 飯田建設事務所長 坂田浩一

飯田市長 飯田副市長 佐藤 健 鈴木弘司 名古屋工業大学 社会学科准教授 座光寺地域関係者 福田富廣 上郷地域関係者 岩崎守倫 上郷北条地域関係者 木下喜文 県リニア整備推進局長 水間武樹 南信州地域振興局長 土屋智則 飯田建設事務所長 坂田浩一

飯田市長 飯田副市長 佐藤 健 鈴木弘司 名古屋工業大学 社会学科准教授 座光寺地域関係者 福田富廣 上郷地域関係者 岩崎守倫 上郷北条地域関係者 木下喜文 県リニア整備推進局長 水間武樹 南信州地域振興局長 土屋智則 飯田建設事務所長 坂田浩一

○	○	○	○	○	○	○
塩沢宏昭	市リニア推進部参事	北沢武人	市リニア推進部長	今村和男	市総合政策部長	寺澤保義
						市総務部長
						高田 修
						上伊那広域連合 事務局長
						田中 章
						南信州広域連合 事務局長
						小池 一之
						東海旅客鉄道(株)中央新幹線建設部担当課長

事務局	事務局	事務局	事務局
-----	-----	-----	-----

事務局	事務局	関係者	関係者
-----	-----	-----	-----

マスコミ

傍聴席 椅子のみ



# 1. 機能的でコンパクトな駅空間

## 基本的な考え方(自動車)

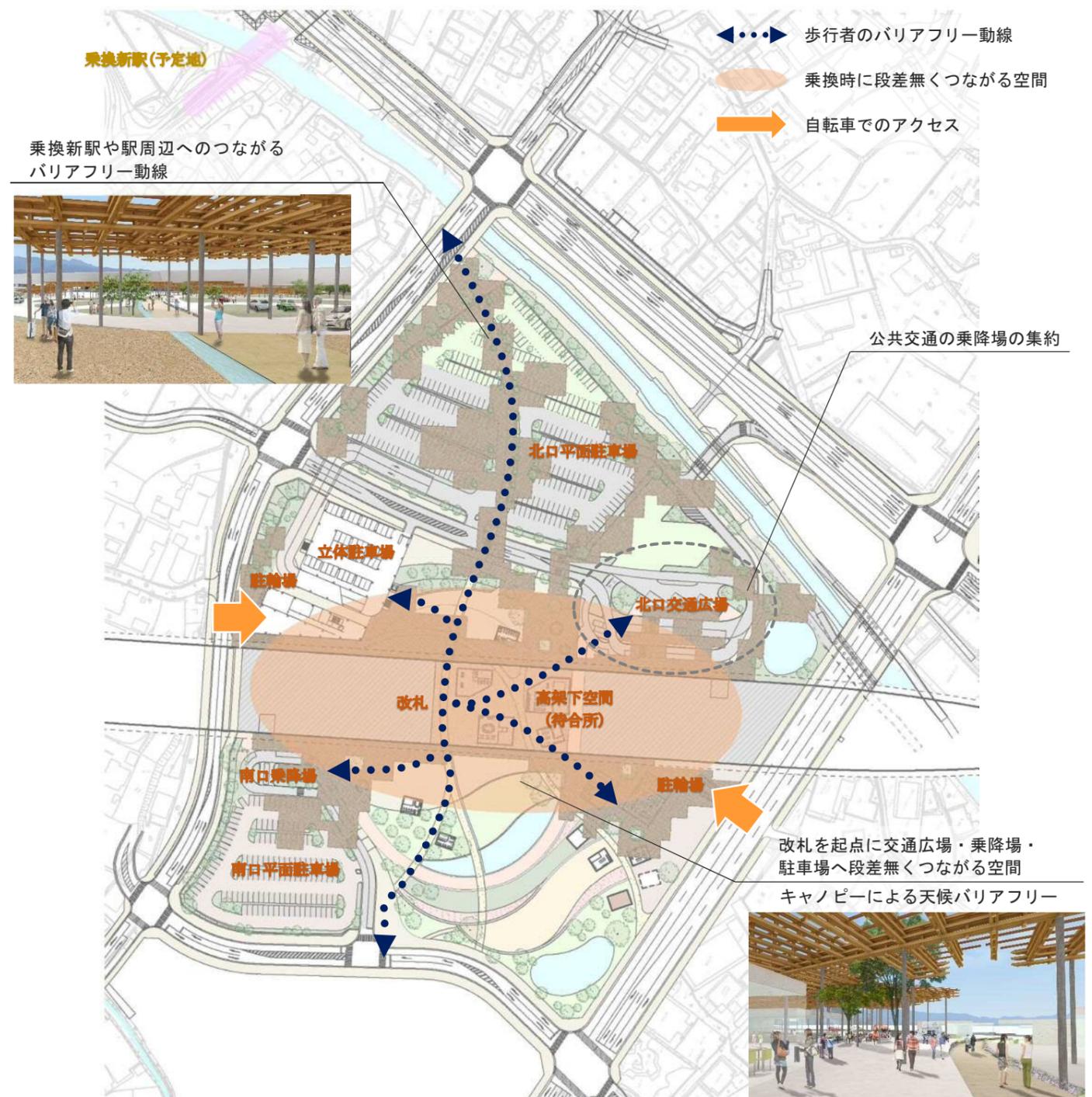
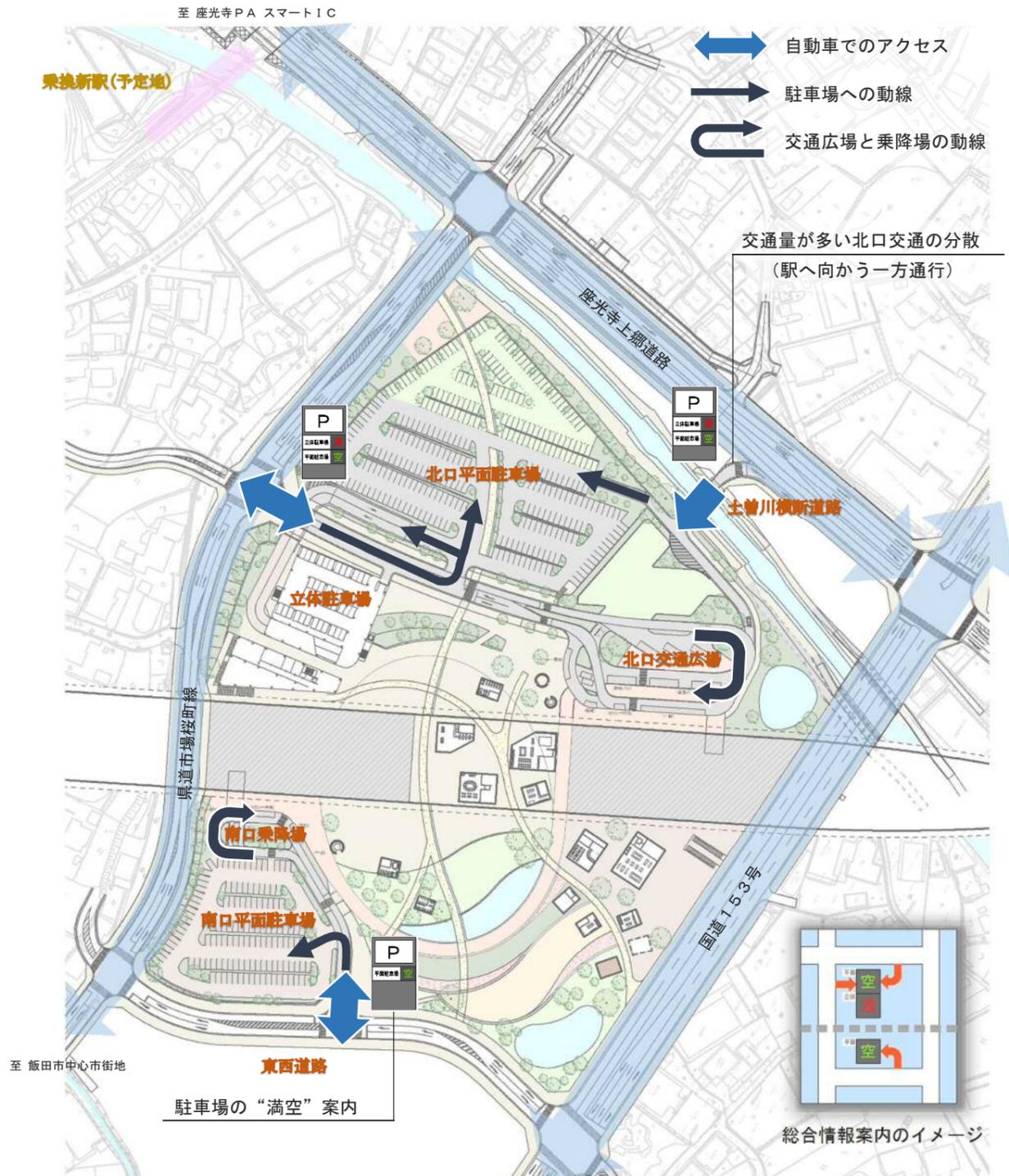
- ・交通量が多い周辺道路への影響を考慮し、交通の分散化（北口）と区画道路への集約（南口）により、周辺交通の円滑化を図ります。
  - ▶ 周辺道路の交通量が多い北口は、土曾川横断道路の整備により交通を分散させます。
  - ▶ 東西道路（区画道路）が整備される南口は、出入口を交通量が少ない東西道路に集約します。
  - ▶ 迂回せずに到着できるように、駐車場へのアクセス・満空情報を案内します。
- ・広域へアクセスしやすい北口に交通広場、周辺へアクセスしやすい南口に日常利用に対応した乗降場を設けます。
- ・交通広場と乗降場は、コンパクトで停車・発車がしやすい右回りのロータリー式とします。
- ・駐車場へは左折入場とし、対向交通との交錯防止を図ると共に、場内道路の円滑化を図ります。

## 基本的な考え方(歩行者)

- ・訪れる全ての人にとって、わかりやすく、乗換えしやすい駅空間とします。
  - ▶ インフォメーションや待合施設を備えた高架下空間を中心に、各施設を見渡せ、段差無くつながる空間構成とし、キャノピーを設けることで雨に濡れずに移動できるようにします。〈市民WS・障害者団体ヒアリングを反映〉
  - ▶ 目的の乗場が判断しやすくなるよう、公共交通の乗降場を北口交通広場に集約します。〈交通事業者ヒアリングを反映〉
- ・バリアフリーに対応したフットパスを設け、駅周辺と歩いてつながる動線を確保します。

## 基本的な考え方(自転車)

- ・自転車は、迂回せずにアクセスできるように、東西両側に駐輪場を設けます。



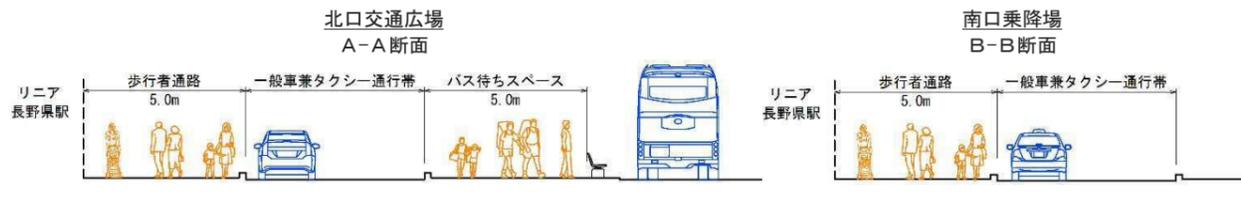
# 1. 機能的でコンパクトな駅空間

## 基本的な考え方(交通広場 及び 乗降場)

- 交通広場は、交通機能ごとに車両動線を分離し、乗降場における各種交通の交錯を防ぎます。
- 公共交通の乗降場は、交通事業者の意見を踏まえ、以下の台数を確保します。
  - ▶ 高速バス：2台（北口）、観光バス：3台（北口）、路線バス：1台（北口）
  - ▶ タクシー：2台（北口及び南口）
- 一般車の乗降場は、北口（福祉バースを含め5台）及び南口（福祉バースを含め4台）で確保します。
- 観光シーズンの交通集中時に対応できる多目的空間を隣接地に確保します。

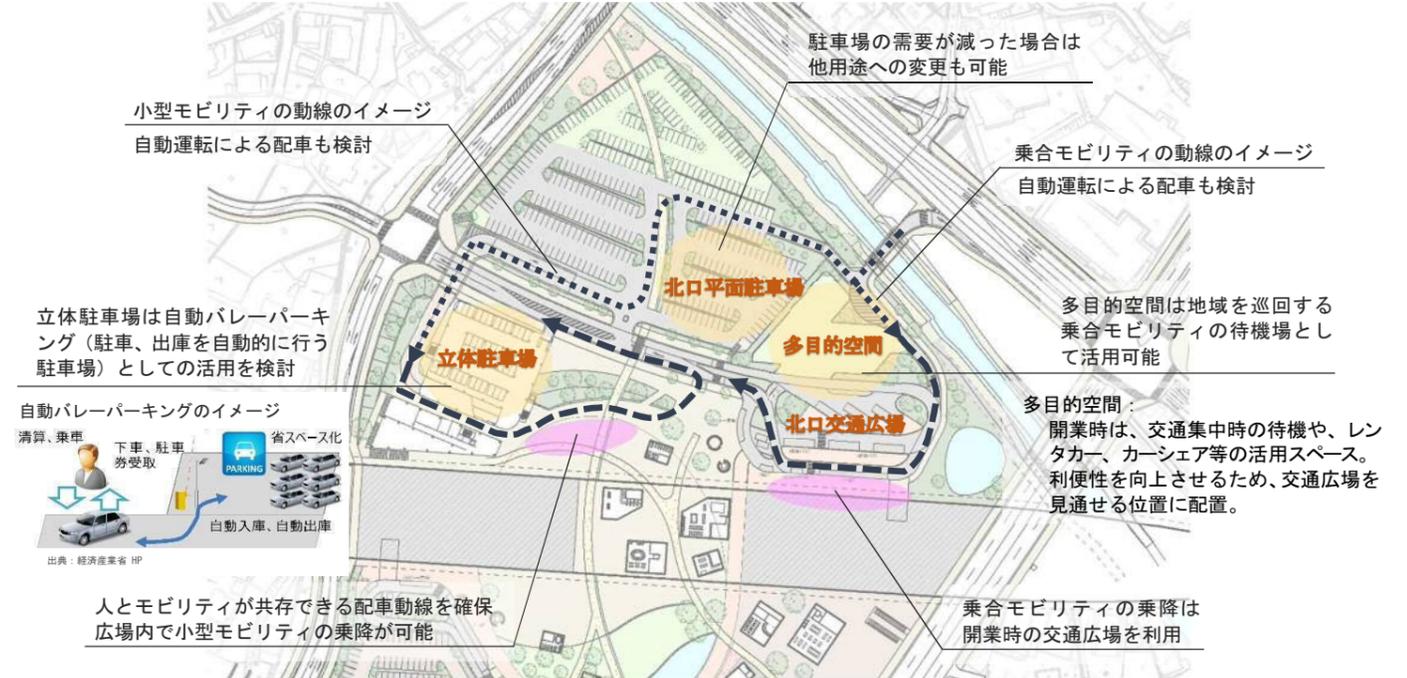


- 家族や荷物を持った旅行者が、並んで歩ける十分なスペースを確保します。



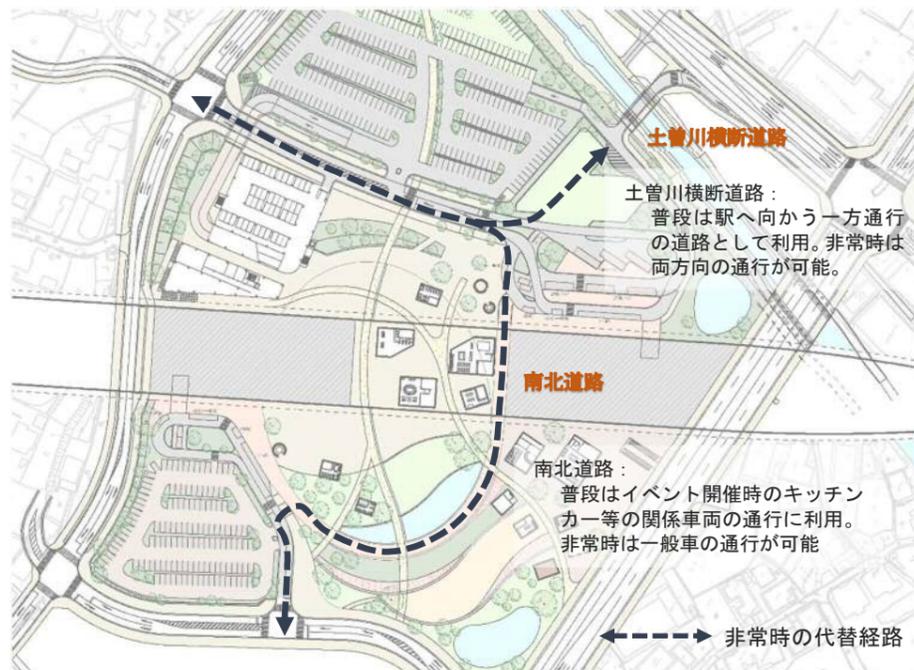
## 将来への可変性

- リニア開業後の交通手段や需要の変化に対応できる、可変性を備えた計画とします。
  - ▶ 新たに必要となる自動運転車等の待機場や充電スタンドなどは、需要の変化に応じて乗降場に近い立体駐車場や多目的空間が活用できます。
  - ▶ 乗合モビリティの乗降場は、乗降スペースが確保された交通広場を活用できます。
  - ▶ 広場内に人とモビリティが共存できる配車動線を確保することで、立体駐車場と連携し、短時間で配車・乗車が行える新たな送迎ゾーンとして活用できます。



## 道路空間の代替機能

- 移動経路が絶たれた場合や、広場内で緊急の対応が必要な場合は、南北道路や土曾川横断道路の活用により、周辺道路への移動経路や、緊急車両が近くまで乗入れられる経路を確保します。
- 南北道路は、交流広場を活用したイベントの開催時には、キッチンカー等の関係車両の通路としての活用も可能となります。



将来の変化に対応した活用場所(案)  
 将来の乗降場の位置(案)

## 自動運転による人とモビリティの共存



## パーソナルモビリティ・小型モビリティの充実



## 2. 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間

### ■リニア駅のシンボルとなる大屋根

- 木製の大屋根が「森」のように南北に広がり、他にはないリニア長野県駅のシンボルとします。
- 長野県内各地の木材を用い、日本の伝統技術による工法を検討します。
- 日陰をつくり、天候バリアフリーに寄与する空間とします。
- キャンपीーがさまざまな市民活動の場をつくります。



### ■魅力発信施設について

- 飯田や伊那谷、長野県全体の魅力を発信するとともに、地域住民に日常的に利用される店舗を目指します。
- 周辺と調和した施設規模とするため、大規模施設とせず、小規模の施設が並ぶ計画とします。
- 施設を分棟配置とすることで、個々での建築の更新や民間事業者との連携を図りやすくし、持続可能かつ地域に根ざした場所とします。



店舗スペース周辺のイメージ

### ■高架下施設について

- 高架下はインフォメーションや待合いの機能を備え、伝統文化のディスプレイや、交流広場越しの飯田の風景がリニア駅利用者を最初に迎入れる玄関口とします。
- 店舗やライブラリーなど、地域の学生などが集まることの出来る施設を置き、天候に左右されない「みんなの居場所」を創出します。



高架下のイメージ

### ■地域らしさを感じさせる空間

- 伊那谷らしい段丘地形を活かしたスケールづくりと空間構成。
- 南北の広場をつなぐフットパスが周辺へと広がり、駅と地域をつなぎます。
- 高低差のある地形や水を活かしたグリーンインフラとします。
- 周辺地域とスケールを合わせた分棟配置の施設群とします。
- 飯田の多様な自然を活かした植生（高木、草木類）を検討します。



集落景観(下栗の里) 出典: 遠山郷観光協会  
 どんと焼きの風景 出典: 飯田市  
 ブナ、アベマキなどの雑木林 出典: 飯田市  
 麻績の里付近の石積み 出典: 長野県公式観光  
 段丘地形と棚田(よこね田んぼ) 出典: 飯田市教育委員会  
 伊賀良を流れる新井川 出典: 飯田市教育委員会  
 ミズヒキなどの草本類 出典: 飯田市教育委員会

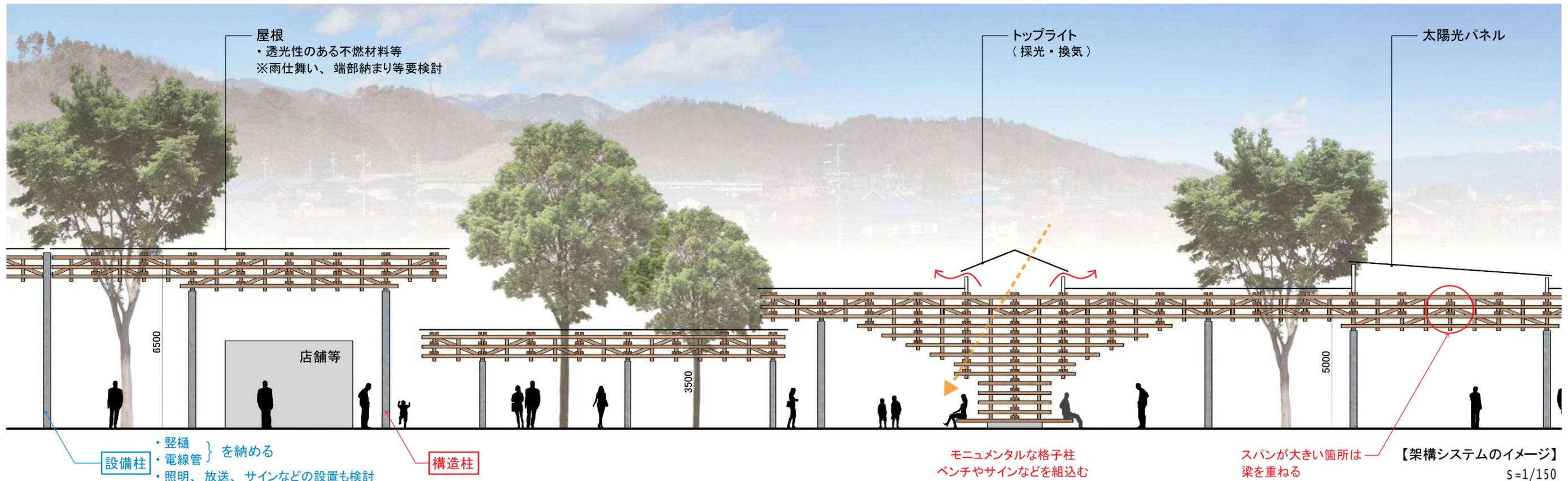
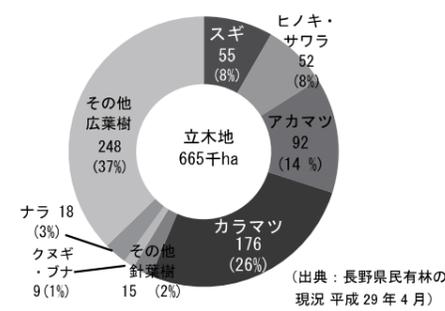


広場空間のイメージ

### 【材料・工法について】

- 地産の木材をできるだけ手を加えずに、(集成材等でなく)無垢の製材のまま利用します。
- 飯田市のみでなく、長野県全体から木材を集めることで、長野全体の森林文化を体現することを検討します。
- 地域林業の状況に合わせて、入手しやすい樹種を使用します。
- 特定の施工者に頼らない一般的な工法を採用することによって、多期にわたる段階的な建設や、将来的な拡張等にも柔軟に対応できる仕組みとします。

### 【長野県における民有林の樹種別面積】



## 2. 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間

### 基本的な考え方

- ・飯田・下伊那地域には、約 2,300 種の植物が分布していることから、地域の樹種、草花により、伊那谷の四季の景観を演出する植栽とします。
- ・北側については、アルプスの山並みを背景とする「里山・森」をテーマとした植栽演出とします。
- ・南側については、飯田・下伊那地域の方々に身近な「里地里山」をテーマとした植栽演出とします。

### 駅北側の植栽

- ◆北口広場は、里山・森のイメージで常緑・落葉の針葉樹等を中心に構成します。
- ◆外周の針葉樹並木と一体的に、円錐形状の針葉樹種など、遠景のアルプスの峰々との調和を演出します。



▲真鍋庭園(北海道帯広市)

出典：第一園芸



▲ハルニレ

出典：北海道立総合研究機構

### 駅南側の植栽

- ◆南口広場は、里地里山のイメージで常緑・落葉広葉樹等を中心に構成します。
- ◆丘陵部の雑木林、農地、果樹園など周辺地域の里地里山を表出する樹種選定を行い、「テラス」と一体的な植栽景観を演出します。



▲信州伊那梅園

出典：長野県宅地建物取引業協会 南支部



▲よこね田んぼ

出典：飯田市

### 外周植栽(北側)

- ・駅周辺の外郭を形成する植栽として、カラマツ、アカマツ等の郷土種から選定し、連続的な景観を演出します。



▲飯田市内の里山

出典：飯田市

### フットパス植栽(アプローチ)

- ・駅とまちとを繋ぐフットパスの動線毎に、異なる樹種・草花によって個性的な景観を演出します。
- ・丘陵部の郷土種を選定し配置します。



▲リンゴ並木(飯田市)

出典：飯田市HP

▲飯田市内の花々

出典：飯田市



### ポイント・シンボル植栽

- ・アイストップやランドマークなどの焦点となる位置については、ハナノキ、ヤマボウシ等の郷土種から存在感がある樹種を植栽します。



▲ハナノキ

出典：飯田市HP



▲ヤマボウシ

出典：緑化樹木ガイドブック

### 外周植栽(南側)

- ・駅周辺の南側の外郭を形成する植栽として、里地・里山の広葉樹等の郷土種から選定し、連続的な景観を演出します。



▲街路樹(札幌市)

出典：札幌市HP

▲りんご並木(飯田市)

出典：飯田市HP

### テラス

- ・交流広場やコミュニティ広場等を中心としたエリアについては、飯田・下伊那地域の自然景観を壇状テラスのデザインとして、人と自然の共生空間を演出します。



▲ハルニレテラス(長野県軽井沢町)

出典：朝日新聞



▲菜の花・ムラサキハナナ・リナリア

出典：兵庫県 園芸公園協会

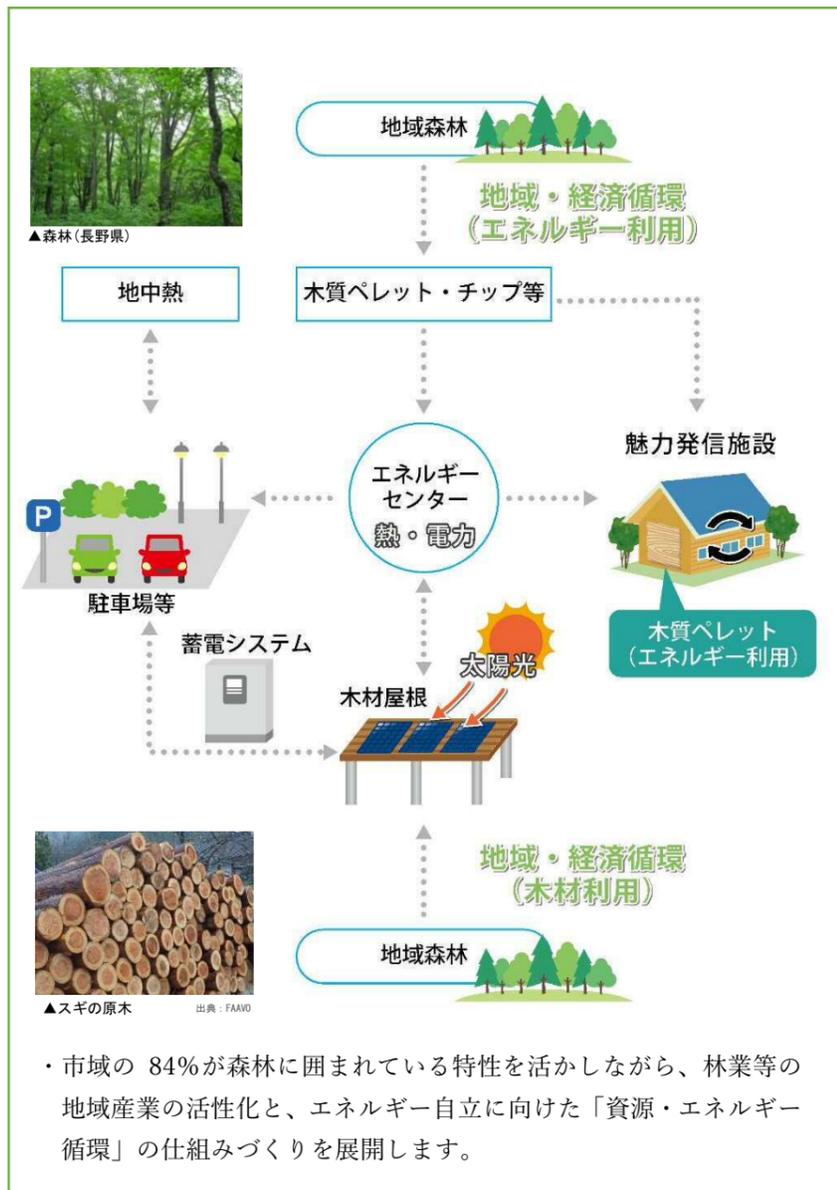
### 3. 自然との調和を目指した駅空間

#### 基本的な考え方

- 再生可能・未利用エネルギーを活用し、信州・伊那谷らしさを感じることができるエネルギー供給の仕組みづくりを行い、地域内経済循環を創りだすとともに、地域内モデルとしての普及も含め、長野県が取り組む RE100 (注) の思想を体現し、環境モデル都市飯田の取組を地域内外に感じてもらえる駅空間となるよう、駅周辺地区内のゼロエミッション化を目指します。
- グリーンインフラ (自然の多様な機能を活用したインフラ) を積極的に用い、環境に優しい癒しの空間を創出しつつ、防災機能、維持管理に優れた持続可能な駅空間とします。

注) RE100: 「Renewable Energy 100%」の略称。事業運営に必要なエネルギーを100%、再生可能エネルギーで賄うことを目標とするもの。

#### 駅周辺地区における資源・エネルギー循環(イメージ)



#### ①フットパス、舗装等

- 地域の魅力ある資源と駅とを繋ぐフットパスを計画的に配置します。
- 植栽、透水性・保水性舗装等による夏季の気温低減を図ります。



#### ②レインガーデン(雨庭・雨花壇等)

- 植栽する場所やフットパス側部等に窪地等を計画的に配置し、雨水流出の抑制、生物多様性、夏季における気温低下等を提供する空間とします。



#### ③地域木材の活用(キャノピー、分棟建物)

- 地域内経済循環として、地域の木材を活用したキャノピーや省エネ仕様の分棟建物(魅力発信施設)を配置します。
- キャノピー上屋等には太陽光パネルを設置し、蓄電システム等による再生可能エネルギーの導入を図ります。



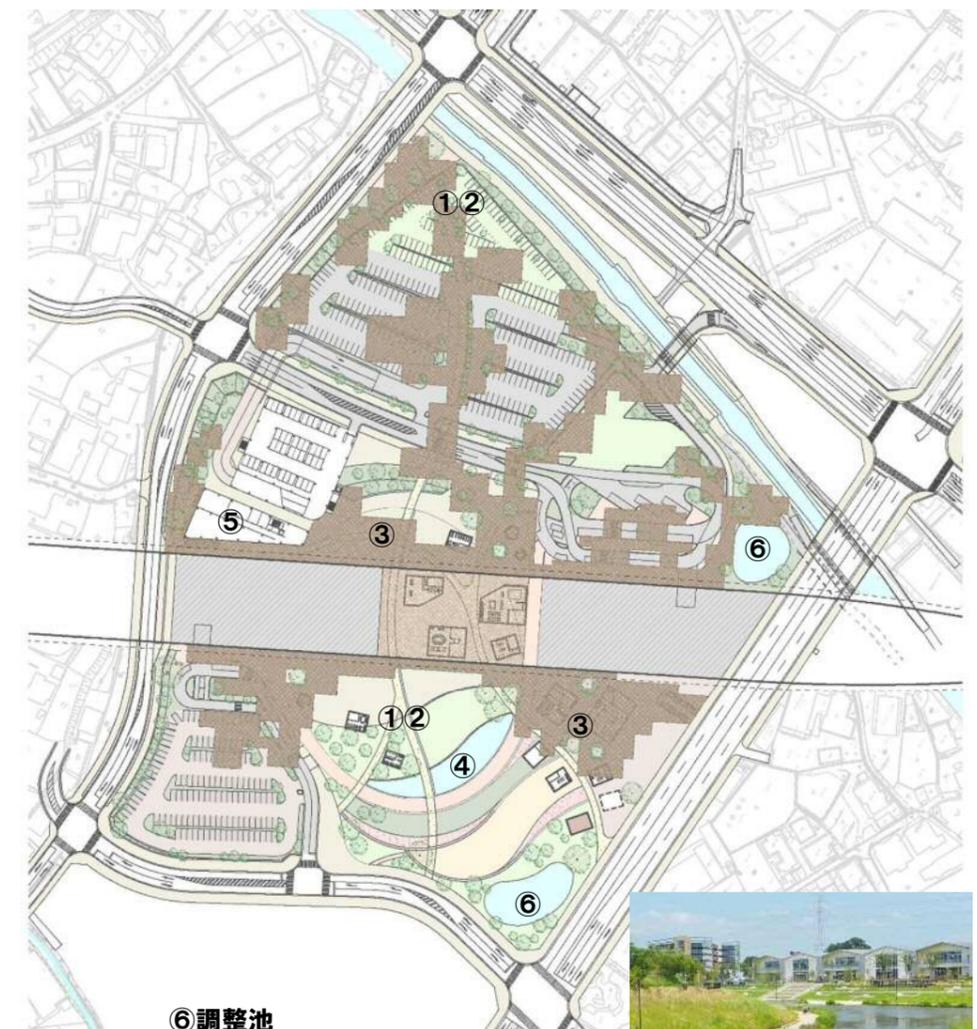
#### ④水盤・井水等

- 本地区が「竜西一貫水路」の受益地であることから水を活かした修景を施します。
- 風景を写し込む水盤は、伊那谷の美しい四季を伝えると共に、夏は子どもたちが水と触れあえる空間とします。



#### ⑤エネルギーセンター

- 地域の森林資源(木質チップ又はペレット)等を活用したエネルギーの域産域消に取り組みます。
- エネルギーの仕組み等を体感できる展示スペース等を確保します。



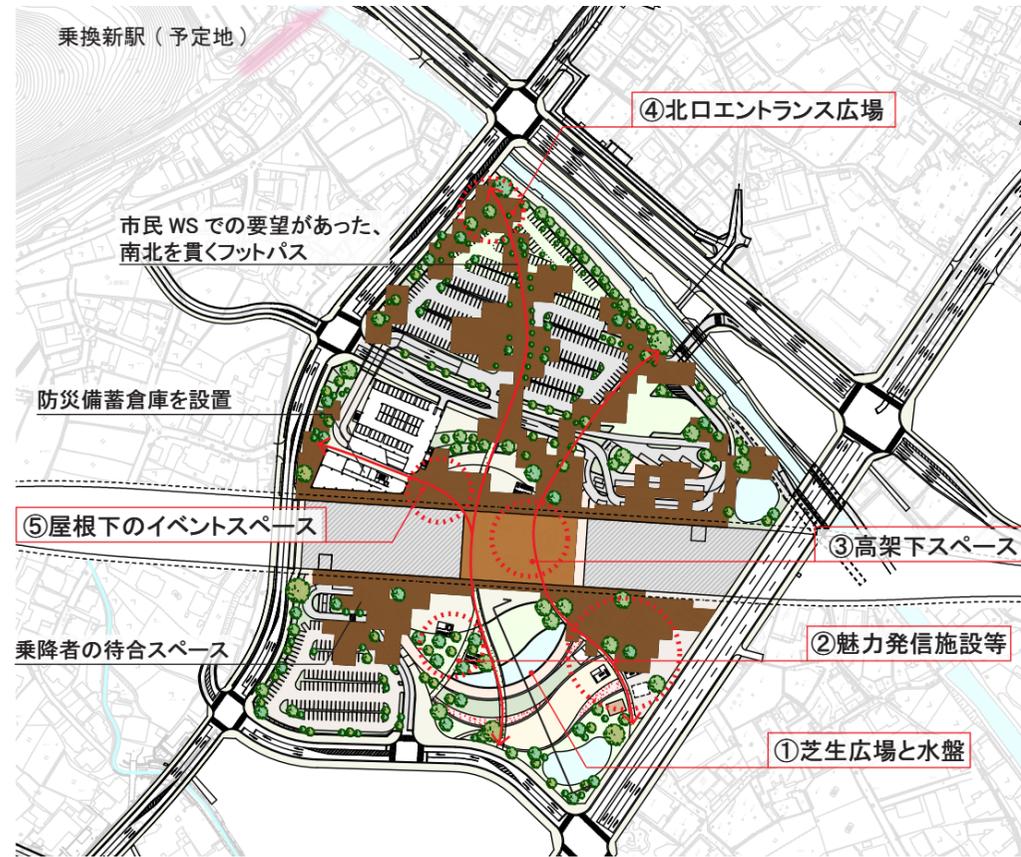
#### ⑥調整池

- 洪水調整の機能に加え、地域の多様な生物・植物が生息でき、季節の変化が感じることができる多機能な空間とします。



## 4. 地域と一体化した駅空間

「信州・伊那谷らしい自然や風景」を活かした空間イメージの具現化



### 市民WSでの意見

第3回までの市民WSで、全体のデザインの方向性については概ねの賛同を得ました。その上で、「良いと思うところ」「心配に思うところ」について意見をいただいたところ、シーンのイメージに関する心配に思うところがいくつか挙がりました。

#### 【良いと思うところ】

- ・屋根はこの駅の特徴になると思う
- ・緑が多い
- ・人のための道が配置されている（歩くことが考えられている）
- ・小さな建物を分棟配置することで、周囲の景観に溶け込んでいる。
- ・もともとの地形が活かされている
- ・水に触れられる
- ・車の利用者にとっても便利そう

#### 【心配に思うところ】

- ・イベントがない時に過ごす人が少なく寂しい印象にならないか
- ・バリアフリーの配慮
- ・飯田らしさを感じられるか
- ・乗換新駅とのつながり
- ・日常時イベント時の使われ方

それを踏まえて第4回の市民WSでは、多くの方が心配されていた飯田らしさや、広場の使われ方について、パースを用いて共有し概ねの賛同を得ました。

### ■日常生活で便利に利用できる空間

#### ①芝生広場と水盤

地形を活かした芝生広場と水盤。水盤は四季の山々を写し込み、夏には子供達の遊び場となります。芝生広場は大きなイベントも可能な緑のステージとなります。



#### ③高架下スペース

待合施設やインフォメーション、ライブラリーなど天候に左右されず集まることの出来る「みんなの居場所」とします。



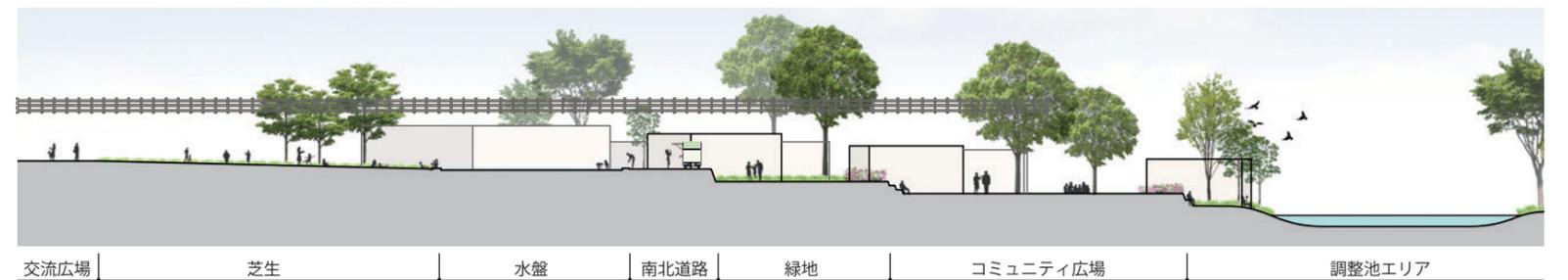
#### ②魅力発信施設等

大屋根と一体となった店舗等のスペース。個々での建築の更新が可能な分棟配置とします。



#### ④北口エントランス広場

地域の人が立ち寄り易い場所とし、来訪者にとっても、乗換新駅との接続が分かりやすいゲート空間とします。



### ■イベントや行事など地域住民がコミュニティ活動の場としても活用できる空間

#### ⑤屋根下のイベントスペース

日常的に日よけ、雨除けとなる屋根下空間は、イベント時にはさまざまな市民活動の場をつくります。



### ■暮らしの履歴を感じられる空間

地域の方々がそこに暮らしてきた歴史に敬意を払い、現存する建物（蔵など）や樹木などの一部を遺し、新しい建物・植栽と調和させて、地域の「暮らしの履歴」も感じられる空間とします。

災害時の対応について  
立体駐車場付近に防災備蓄倉庫の設置を検討します。また、キャノピーや高架下スペースは、一時避難所として機能します。



防災備蓄倉庫イメージ  
出典：金沢市

## デザインノートについて

### 1. 目的と方針

長期間かつ多くの関係者が絡むプロジェクトを適切に進めていくためには、**計画・設計・施工に至る様々な段階で、立ち戻ることのできる“計画の柱”**をまとめておくことが重要です。

そこで、基本設計と並行し、**リニア駅前の考え方や目指す空間像を、地域の人々や多くの関係者・関係機関と共有する**ための資料として、『(仮称)リニア駅前空間デザインノート』を作成します。

本資料は、市民向けのパンフレットにもなり、また、関係機関や将来の設計者・施工者などへの説明資料・意思伝達資料としての役割を担い、**基本設計の概要版**になるものです。そのため、模型写真やパースなどビジュアルに配慮した資料に加え、できるだけ専門用語を用いない説明により、コンパクトでありながら、計画の考え方をきちんと伝えられる資料とします。

また、内容については、市民ワークショップ・学識者専門委員会・リニア駅周辺整備デザイン会議での議論の内容や意見を反映し、市民との協働によるリニア駅前の計画をとりまとめたものとします。

### 2. 構成案

#### (1) リニア駅・駅前空間の考え方

⇒地域やエリアの特徴や魅力も含め、テーマや設計の方針を記載【次頁参照】

#### (2) 駅前全体の空間デザイン

⇒テーマや設計の方針を実現するために大切にすべきことを、駅前空間の全体イメージとともに記載（今後、内容を検討）

#### (3) 設計において大切にすべきことと空間・活動イメージ

⇒(2)で提示した、テーマや設計の方針を実現するために大切にすべき5つについて、それぞれの空間イメージや活動イメージを記載（今後、内容を検討）

#### (4) 全体にかかる統一事項

⇒舗装などの素材や色彩、植栽など、駅前全体で統一する要素についての考え方を記載（今後、内容を検討）

#### (5) 魅力発信コンテンツのビジョン

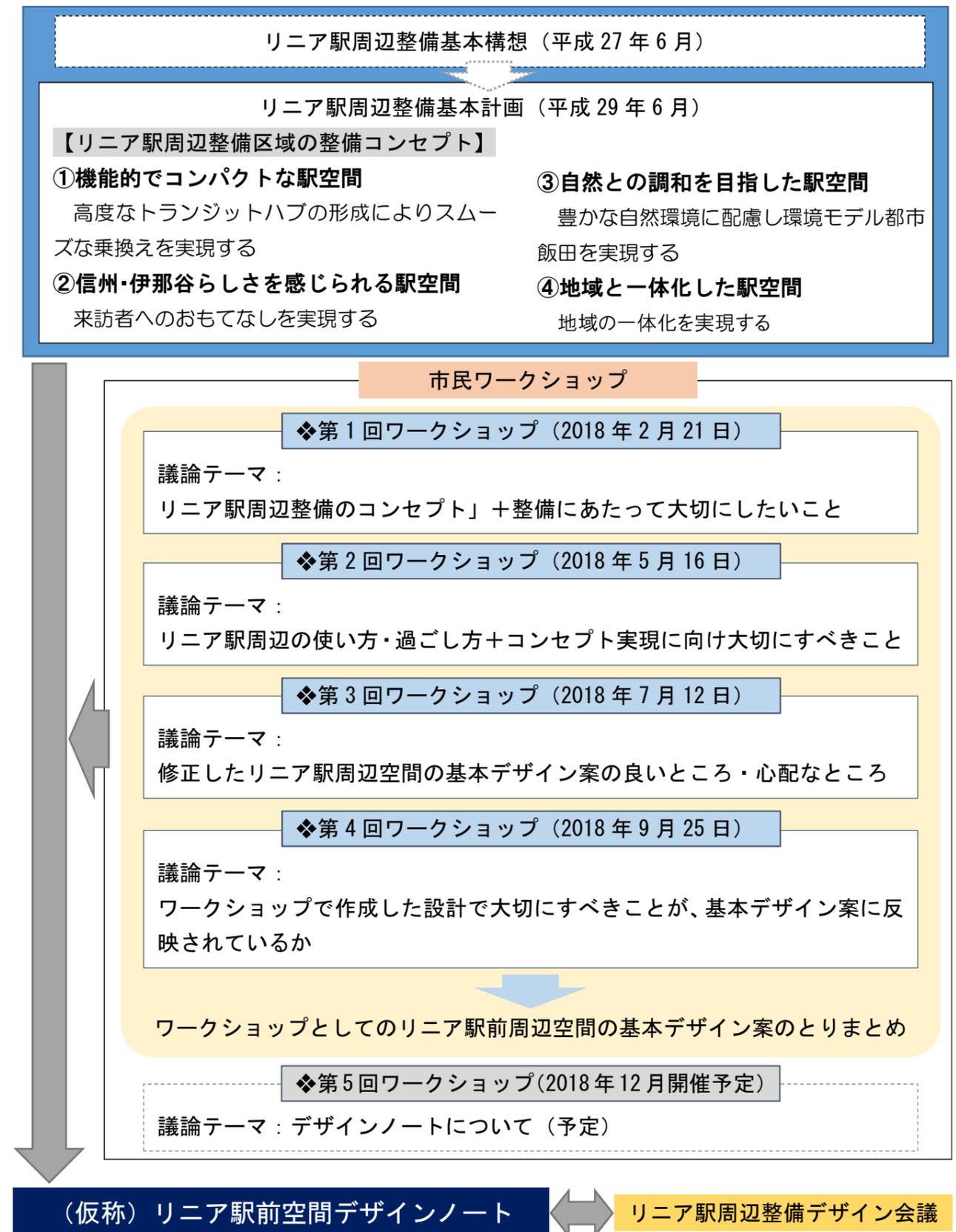
⇒駅前空間で発信するコンテンツ（サービス、体験など）の内容、対象者などの考え方を記載（今後、内容を検討）

### 3. 「(1) リニア駅・駅前空間の考え方」について

本デザインノートの根幹となるものであり、「これまでの整備コンセプト」と、「テーマ」、「設計において大切にすべきこと」で構成しています。

検討にあたっては、リニア駅周辺整備基本構想（平成27年6月）に基づいて策定した「リニア駅周辺整備基本計画（平成29年6月）」を踏まえています。また、市民ワークショップでの議論の成果を盛り込んでいます。

### ■ (仮称) リニア駅前空間デザインノート検討の流れ【イメージ】



リニア駅周辺整備区域の整備コンセプト

①機能的でコンパクトな駅空間

高度なトランジットハブの形成によりスムーズな乗換えを実現する

②信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間

来訪者へのおもてなしを実現する

③自然との調和を目指した駅空間

豊かな自然環境に配慮し環境モデル都市飯田を実現する

④地域と一体化した駅空間

地域の一体化を実現する

※リニア駅周辺整備基本計画（平成29年6月）より

テーマ（案）

『結いの広場—暮らしと風景をつなぐ駅』

本地域は、南アルプスや中央アルプスを望む伊那谷南部に位置し、三州街道や天竜川の交流を通じ、東西日本を結ぶ文化の要地として発展してきました。この信州・伊那谷に、リニア中央新幹線駅が開業されることにより、人、モノ、情報等の交流と交通利便性が飛躍的に高まります。

また、この地域は、旧来から農業等を生業として、田んぼや集落が点在する田園環境を有する一方、交通の要所としての地理的条件と、進取性と学究性に富んだ市民の気質が、食文化や人形文化等の飯田の魅力を育んできました。

こうした地域の成り立ちや暮らしの履歴を尊重し、先人たちの意思を引き継ぎながら、信州・伊那谷の新たな「結び目」を生み出す駅前広場を目指します。

その結び目は、伊那谷の風景に溶け込み、人が主役となる場所として、そして、来訪者が信州・伊那谷の風景と出会い、この地の文化や暮らしを感じながら、新たな交流と地域の活力を育むことができる場所とします。

大都市と緑豊かな環境が結びつく新しいライフスタイルの提供、伝統技術と先端技術の融合など、リニア中央新幹線を介した広域的な繋がりにより、「過去と未来」、「高速移動とスローライフ」など、この地だからできる信州・伊那谷の風景・暮らしをつなぐ、やわらかな結び目としての広場＝「結いの広場」を目指します。



設計方針 コンセプトやテーマの実現に向け、設計で大切にすべきこと

1) アクセスやバリアフリーに優れた交通環境 ・・コンセプト①・④に対応

- ・南北一体の広場に接し、路線バスや観光バスの停車する北口交通広場と、地域の人々が使いやすい南口乗降場を設け、コンパクトで高度なトランジットを実現します。
- ・改札から屋根のある平坦な道を歩いて乗り換えができるよう天候にも対応したバリアフリー環境とし、サイン類をはじめユニバーサルデザインとします。
- ・車の利用者が乗り換えやすい駐車場を設けます。
- ・学生や高齢者など車に乗らない人たちが利用する公共交通などのアクセスに配慮します。

2) 住民や来訪者の居場所となり、豊かな時間を過ごせる駅前空間 ・・コンセプト①・④に対応

- ・駅の中心に南北をつなぐ広場を設け、それを囲むように交通広場や魅力発信・生活利便機能を備えた施設を配置することで、人が主役の緑とにぎわいの広場をつくります。
- ・お茶や買い物を楽しんだり、地元の食材やお酒を味わったり、家族でのんびり過ごしたり、散歩で立ち寄ったり、健康づくりをしたり、学生が課外活動をしたり、様々なイベントで盛り上がるなど、リニアに乗る人も乗らない人も、若い世代も高齢世代も楽しめる空間とします。
- ・広場空間は、大小様々な使い方ができ、冬の寒さや夏の暑さといった気候にも配慮した居心地の良い空間とします。
- ・水引きや人形劇など地域の伝統文化の継承や、どんど焼きや盆踊りなど地域のコミュニティの絆を高める空間とします。

3) 伊那谷の風景に溶け込み、その魅力を引き出す駅前空間 ・・コンセプト②・③に対応

- ・天竜川に向かって傾斜する地形、豊かな流れの用水、南アルプスや伊那山地への眺望、樹木や草花など地場の植生、多様な生態系という地域の特徴を活かし駅を出た瞬間から飯田や信州らしい風景を五感で味わえるランドスケープとします。
- ・人が主役の広場と地場の木材を利用した大きな屋根を合わせ、自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間をつくります。
- ・歩くのが楽しくなる回遊性の高い駅前空間とします。

4) 様々な人のつながりと、伊那谷全域へと誘い出すきっかけをつくる駅前空間 ・・コンセプト②・④に対応

- ・来訪者と地域住民といった人と人の出会いや、来訪者と地場産品といった人とモノの出会いが生まれる空間とします。
- ・長野県全域や伊那谷周辺の魅力的なエリアやお店、伝統芸能やアクティビティを伝える情報提供など、長野県や伊那谷全域へ誘い出すきっかけをつくります。
- ・近隣住民の生活環境を守りつつ、周辺に良い波及効果を生み出すよう、敷地内だけでなく周辺地域との回遊性を確保します。
- ・将来にわたって持続的に活用されるよう、運営者・事業者の様々なニーズに対応できる空間とします。

5) 時代を先取りし、変化に対応できる計画 ・・コンセプト①・③・④に対応

- ・限られた土地を有効活用するために、平常時とイベント時など、さまざまな使い方ができるフレキシブルな空間とします。
- ・自動運転や次世代モビリティといった発展目覚ましい技術や、再生可能エネルギーや低炭素技術など環境技術に加え、ライフスタイルの変化など社会のニーズにも対応できるようにします。
- ・グリーンインフラ（自然の多様な機能を活用したインフラ）を積極的に使い、環境に優しく、防災機能と維持管理に優れる、持続可能な空間をつくります。

# リニア駅周辺整備 ワークショップだより

平成 30 年 7 月発行

vol.3

## ●第3回リニア駅周辺整備ワークショップを開催しました！

7月12日に第3回目となる「リニア駅周辺整備ワークショップ」を開催しました。当日は初参加の方、高校生を含む、総勢26名にご参加いただきました。

今回は、第1回、第2回のワークショップを踏まえて修正した計画案を模型で提示し、デザインがどのように変わったのかを確認しながら、さらに良い空間とするためにはどうなると良いかをディスカッションしました。

### 開催実績

- ◆日時：平成30年7月12日（木）  
18:30～21:00
- ◆会場：飯田市役所
- ◆参加者数：26名（初参加4名、高校生4名）

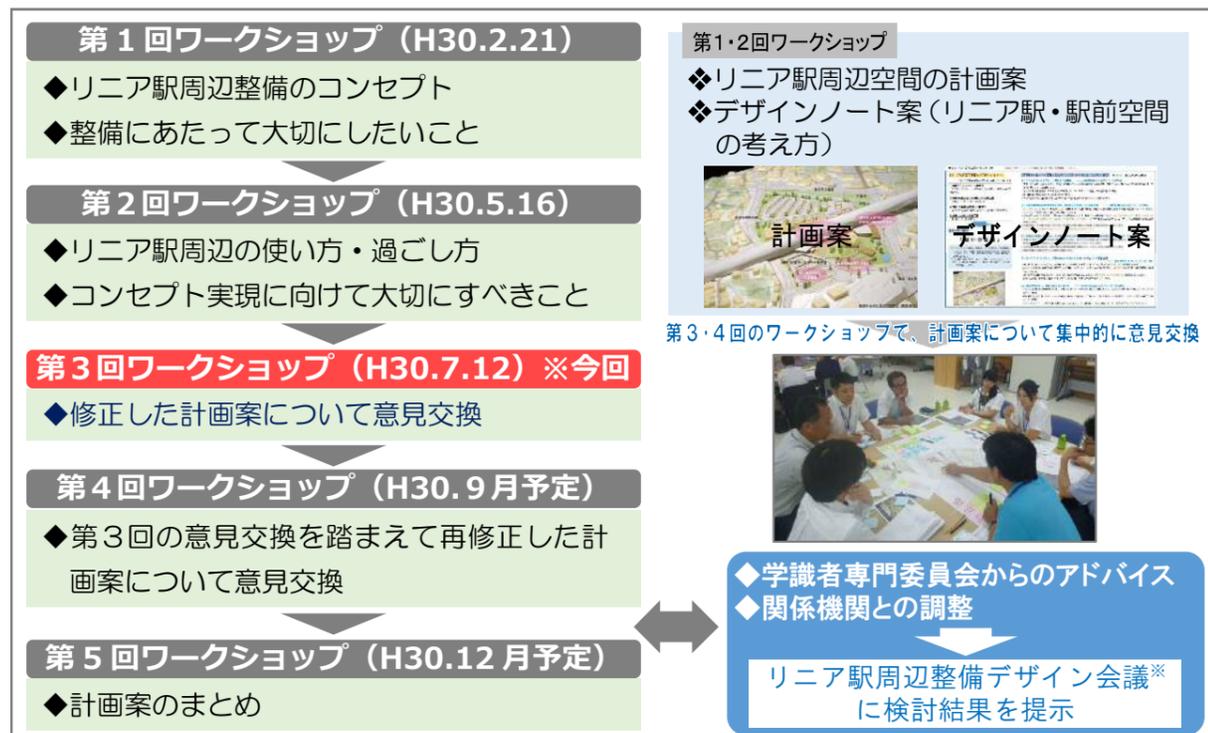


■計画案の説明を聞く様子

## ●これまでの経過とこれからの流れ

これまで2回のワークショップでは、整備にあたって大切にしたいこと、駅周辺空間の使い方・過ごし方について意見交換を行い、基本的な考え方を整理してきました。

今回と次回で行う計画案についての集中的な意見交換を通じて、ワークショップにおけるリニア駅周辺空間の概ねの計画をとりまとめていきます。



※リニア駅周辺整備デザイン会議：「基本設計」の内容を検討するために学識経験者、駅計画地域の代表者、各種団体の代表、行政機関等で組織された会議

## ●ワークショップで出された主な意見

計画案をベースにしながら、『良いと思うところ』『心配に思うところ』について、4つのグループに分かれて意見交換を行いました。

### 【良いと思うところ】

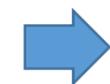
- 日除け、雨除けになる屋根がある
- 緑が多い
- 人のための道が配置されている（歩くことが考えられている）
- 店舗などの建物が複数あって楽しそう
- もともとの地形が生かされている
- 水に触れられる
- 車の利用者にとっても便利そう など

### 【心配に思うところ】

- 駅に降り立ったときに飯田や信州らしさを感じられるか(果樹、水引き、人形劇、獅子舞、水田などを表現できないか)
- イベントがない時に過ごす人が少なく寂しい印象にならないか
- 雪や暑さの対策は十分か
- バリアフリーの配慮は十分か
- 屋根は管理が考慮されているか
- 乗換え新駅はできるのか
- 駅舎の構造はどうなるのか など



■ワークショップの様子



いただいたご意見を踏まえてブラッシュアップした計画案・模型を第4回ワークショップで提示し、さらに議論を深めます。

## ●今後の予定

### 第4回ワークショップの開催について

#### ▶テーマ(予定)

第3回ワークショップの結果を踏まえて修正したリニア駅周辺空間の計画案について

#### ▶開催日時

平成30年9月下旬  
(平日の夜を予定)

### ✓参加者募集について

開催回ごとに参加者募集を行いますので、第4回からの参加も歓迎します(開催回数は全5回を予定しています)。

あなたもリニア駅周辺のあり方を一緒に考えませんか?



詳細は市HPや広報などでお知らせします。

問い合わせ先 飯田市役所 リニア推進部 リニア整備課

☎ : 0265 (22) 4511 内線 3334

FAX : 0265 (22) 5371

✉ : linear-seibi@city.iida.nagano.jp

# リニア駅周辺整備 ワークショップだより

平成30年10月発行

vol.4

## ●第4回リニア駅周辺整備ワークショップを開催しました！

9月25日に第4回目となる「リニア駅周辺整備ワークショップ」を開催しました。当日は初参加の方、高校生を含む、総勢30名にご参加いただきました。

今回は、第3回ワークショップを踏まえてブラッシュアップした計画案をもとに、これまで3回にわたって議論をしてきた「大切にすべきこと」が反映されているのかを確認しました。

### 開催実績

- ◆日時：平成30年9月25日（火）  
18:30～21:00
- ◆会場：飯田市役所
- ◆参加者数：30名（初参加6名、高校生3名）



■意見交換の様子

## ●ワークショップで出された主な意見

意見交換では、「シンボルになりそうだ」「ワクワクするような空間となった」などの声が上がリ、検討が必要な部分はあるものの、全体的にはワークショップの成果として、みなさんの賛同をいただきました。

### これまでのワークショップを踏まえた「大切にすべきこと」

- 1) アクセスやバリアフリーに優れた交通環境
- 2) 地域住民や来訪者の居場所となり、豊かな時間を過ごせる駅前空間
- 3) 伊那谷の風景に溶け込み、その魅力を引き出す駅前空間
- 4) 様々な人のつながりと、伊那谷全域へと誘い出すきっかけをつくる駅前空間
- 5) 時代を先取りし、変化に対応できる計画

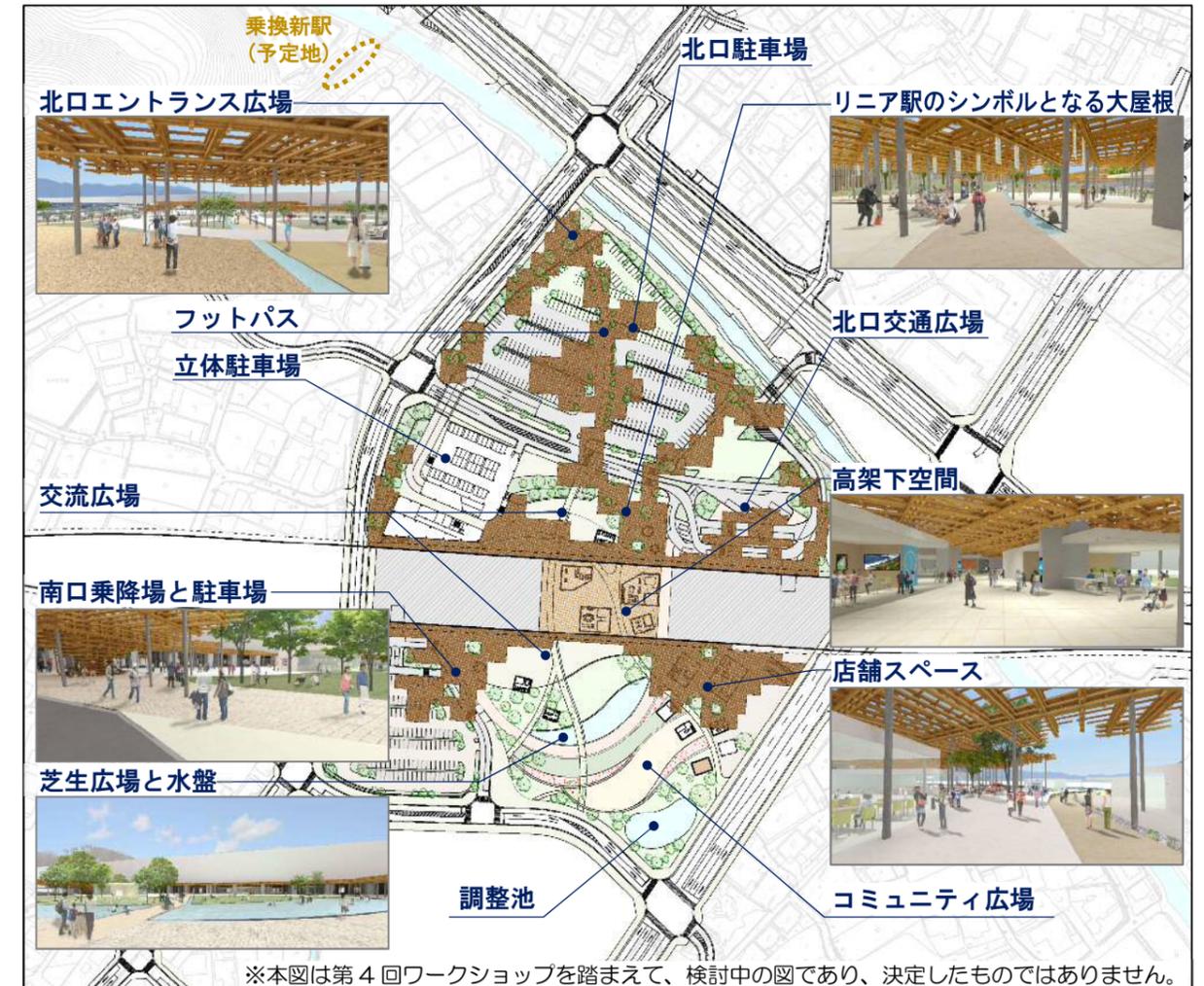
### 皆様からのご意見（抜粋）

良いと思う	検討が必要（希望・アイデアなど）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨に濡れずに乗換えができる</li> <li>・大きな建物がなく、分棟になっている</li> <li>・公園の中に駅があるイメージ</li> <li>・歩きたくなる雰囲気がある</li> <li>・木の屋根によってリニア構造物が隠れる</li> <li>・屋根の材料として地域の間伐材を用いている</li> <li>・緑が多い（他の駅にはない）</li> <li>・水が活かされている</li> <li>・起伏のある地形を活かしている</li> <li>・木材利用による資源循環へのチャレンジ</li> <li>・将来を想定している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じた水の利用方法</li> <li>・落ち葉の使い方の工夫</li> <li>・花、果樹を活かす方法</li> <li>・地域の伝統的な建築の活用</li> <li>・地域の文化を見せる工夫</li> <li>・駅で完結せず、周辺地域へいざなう工夫</li> <li>・乗換え新駅へのアクセス方法</li> <li>・店舗などが継続される方法</li> </ul>
	など

## ●リニア駅周辺空間の計画案

これまでの4回のワークショップの成果としてリニア駅周辺空間の計画案をまとめました。計画案の詳しい説明は飯田市ホームページをご覧ください。

飯田市第4回リニア駅周辺整備デザイン会議 [検索](#)



※本図は第4回ワークショップを踏まえて、検討中の図であり、決定したものではありません。

## ●今後の予定

### 第5回ワークショップの開催について

#### ▶テーマ（予定）

計画案の考え方を整理したデザインノートについて

#### ▶開催日時

平成30年12月中旬（平日の夜を予定）

### 参加者募集について

第5回が今年度の最終回となりますが、初めての方も参加いただけます。あなたもリニア駅周辺のあり方を一緒に考えませんか？



詳細は市HPや広報などでお知らせします。

問い合わせ先 飯田市役所 リニア推進部 リニア整備課

☎ : 0265 (22) 4511 内線 3334

FAX : 0265 (22) 5371

✉ : linear-seibi@city.iida.nagano.jp

H30年度 スケジュール(案)

各種会議	議論内容	目標	設計作業等
5月	5月16日：第2回ワークショップ 5月30日：第6回学識者専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>広場空間のアイデア出し</li> <li>リニア駅・駅前空間の考え方(案)の承認</li> <li>全体の配置計画の決定</li> </ul>	<p>1/500程度の模型を用いた駅前広場の空間デザインの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地の履歴の継承・WSの広場の使い方を反映</li> <li>→第3回WSで提示</li> </ul> <p>配置計画を踏まえ、道路・交通広場・駐車場などの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→学識委員会・デザイン会議で提示</li> <li>その後、継続して検討、関係機関協議</li> </ul>
6月	6月11日：第3回デザイン会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>広場空間の使い方や過ごし方</li> <li>コンセプト実現に向け大切にすべきこと+全体の配置計画</li> </ul>	
7月	7月12日：第3回ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力発信施設・高架下の具体的なアイデア出し</li> <li>駅前空間のデザインの方向性の決定</li> </ul>	<p>駅前広場空間のブラッシュアップ検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>WSでの駅前コンテンツや広場の使い方を反映</li> <li>駅前の利用イメージを模型や平面図、イメージなどで整理</li> <li>→第4回WSで提示</li> </ul> <p>第3・4回WSを踏まえ、魅力発信施設の区域検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→学識委員会・デザイン会議で提示</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域的な連携を活かした駅前で提供できるコンテンツとは</li> <li>使い方や過ごし方などを踏まえ、修正した計画案の議論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域的な連携を活かした駅前で提供できるコンテンツとは</li> <li>使い方や過ごし方などを踏まえ、修正した計画案の議論</li> </ul>	
9月	9月25日：第4回ワークショップ 10月2日：第7回学識者専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前空間(南北広場・高架下・魅力発信施設)の概ねの基本設計検討案の決定</li> </ul>	<p>概ねの基本設計検討案の決定</p> <p>県等関係機関協議 ・ パブリックコメント ・ 縦覧</p>
10月	10月16日：第4回デザイン会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>WSを反映した駅前の利用イメージを踏まえて、修正した計画案について議論</li> </ul>	
11月	11月21日予定：民間事業者との意見交換会(魅力発信施設等のつかい方) 12月2日予定：市民説明会(基本設計検討案の説明)	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画案の決定</li> <li>今後の市民参加の方法のアイデア出し</li> <li>来年度以降の進め方</li> </ul>	<p>・デザインノートコンテンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→市民説明会</li> </ul> <p>・駅前広場空間のブラッシュアップ検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→第5回WSで提示</li> </ul>
12月	12月20日予定：第5回ワークショップ		
1月	1月中旬：第8回学識者専門委員会	<p>(仮称)リニア駅前空間デザインノート構成(案)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>リニア駅・駅前空間の考え方</li> <li>駅前全体の空間デザイン</li> <li>空間・活用イメージ</li> <li>全体にかかる統一事項</li> <li>魅力発信コンテンツのビジョン</li> </ol>	<p>都市計画審議会</p>
2月	2月中旬：第5回デザイン会議		
3月	3月予定：市民説明会		<p>決定告示</p>

■第3回リニア駅周辺整備デザイン会議における意見対応

項目	主なご意見(当日の課題)	取組方針
長野・伊那谷・飯田としての魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力の定義を明確にすることも重要である。知事は「長野県の南の玄関口」、「長野県の玄関口」になり、この玄関口から伊那谷、長野県全体に広げていかなければならないと言っている。長野県としての位置づけも説明していくということを念頭に置く必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ワークショップにおける意見等も含めて、県産の木材を用いて、日本の伝統技術を活かした大屋根が「森」のように南北に広く展開し、長野県駅のシンボルとしての風景をつくるよう設計プランを検討しています。</li> <li>屋根下の空間は、伊那谷全体の様々な市民等の活動を可能とする「舞台」となるよう配置検討しています。</li> <li>構造は、一般的な流通木材を用いることで、林業サイクルと連携した資源循環型のメンテナンスや維持管理を可能とするよう検討しています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>飯田のための駅ではなく、伊那谷全体の駅となる。伊那谷全体への説明をどのように行い、理解を得ていくのが心配である。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見として挙げられたことを総花的に反映するのではなく、飯田の特色が出るような特徴的なソフトが展開される空間としていただきたい。特徴がないと通過されてしまうのではないかと心配している。</li> </ul>	
地域と連携した広場空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流広場とコミュニティ広場が一体になっているが、コミュニティ広場は、分断される地区のコミュニティの維持に役立てるため、存在感のある広場にしていきたい。この点については、地域と協議をしながら検討を進めていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力ある広場空間に向けて、地域住民や民間事業者等による活用方策を検討していきます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流広場は良いと思う。オンリーワンの空間を目指してほしい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地を提供する人たちに配慮しながら今後も検討を進めていただきたい。</li> </ul>	
バリアフリー等への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>雪や風の対策により、濡れず、滑らず乗り換えられるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高架下空間については、南北の連続性を確保しつつ、空調設備を備えた分棟型の建築物を計画的に配置し、暑さ・寒さ対策を検討しています。</li> <li>南北に大屋根を配置し、雨、雪等に対応した天候バリアフリーの空間創出を検討しています。</li> <li>高架下空間を中心として、デジタルサイネージ・多言語案内等による外国人を含めたインフォメーションを検討しています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間のイメージに対する共通認識が図られていないことが心配である。例えば、広場と駅舎の境界に仕切りができるかどうかで、高架下の利用や暑さ・寒さ対策の方法も変わってくる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様目線のサービス(雨・雪への対応等)が重要と考える。</li> <li>季節を問わず来訪者に「良い環境」と思ってもらえる駅とする必要がある。外から訪れる人にとっては、冬は寒いという印象が強いため、乗換え動線上での冬場の対応策を考えていただきたい。</li> <li>外国人への対応を考慮したユニバーサルデザインとしていただきたい。</li> </ul>	
必要となる交通機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランジット機能と交流機能の両立について、広場に議論が片寄っている印象である。にぎわい交流機能が具体化していないため、交通との両立の議論が進まないと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ワークショップを通じた広場の議論と、バス等の交通事業者へのヒアリング結果を踏まえた設計プランの検討を進めています。</li> <li>乗換新駅の設置に向けて、継続的に南信州広域連合、JR東海等と協議を進めていきます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗換新駅まで信号無しで行ける専用のルートができると良いと考える。</li> </ul>	

項目	主なご意見(当日の課題)	取組方針
駅周辺の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>何を求めて、何をするかということに対する共通認識が図られていないため、フィロソフィーが重要と感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、駅周辺区域で提供するコンテンツについては、利便性や魅力的な空間に向けて重要な要素となります。そのため、民間事業者との意見交換会を行い、将来の施設運営事業者や提供可能なコンテンツの具体検討を進める予定です。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>この駅のコンセプト(誰のために、何のためにこの広場があり、どう使われていくのか)を共有することが重要である。また、コンテンツが明らかになっていないこともイメージを共有できていない要因なのではないかと考える。</li> </ul>	
駅周辺の景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北どちらが駅の顔なのかが分からない。北側を顔とするのであれば、景観はつくられたものが気になる。南側には「これがあるから来る」というものができるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅の北側、南側を繋ぐ木格子の大屋根を配置し、南北それぞれの景観づくりを検討しています。</li> <li>立体駐車場については、2F(屋上有)として検討をしています。</li> <li>駅周辺の景観づくりについては、別途、都市計画法の地区計画制度等を活用し、景観形成を図る予定です。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者の視点に立つと、リニア駅周辺の景観を良くするだけでなく、ごみ、看板等の景観向上の取組みを伊那谷全体、長野県全体に広げる必要があると考える。</li> </ul>	
土曾川横断道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>土曾川横断道路はイメージの検討が先行しているが、技術的な検討も要するため、飯田建設事務所と協議、調整を進め、安全面も不安が無いような施設としていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回デザイン会議以降、土曾川横断道路等について関係行政機関と協議をしています。今後も施設整備の実現に向けて協議を行う予定です。</li> </ul>

※学識者からの意見については、別途、学識者専門会議、個別協議にて実施していますので省略しています。

第 3 回リニア駅周辺整備デザイン会議以降の経過報告

第 3 回リニア駅周辺整備デザイン会議 (6/11 開催)

【主な意見・課題等】

- ①長野・伊那谷・飯田としての魅力表現が必要
- ②地域と連携した広場空間が必要
- ③バリアフリー等への配慮が必要
- ④必要となる交通機能の確認が必要
- ⑤駅周辺の利活用の具体化が必要
- ⑥駅周辺の景観形成が必要 等

各視点から見た課題へのアプローチ

第 3～4 回リニア駅周辺整備に関する市民ワークショップ

- ・第 3 回：設計プランに対する良いと思うところ、心配に思うところ
- ・第 4 回：修正プランに対する意見、アイデア

実施日：7/12、9/25

学識者との個別協議等【7/5～10/1 まで適宜実施】

- ・小澤委員長 [設計プラン、環境エネルギー]
- ・北川原委員 [設計プラン、デザイン]
- ・大西委員 [市民参画、官民連携]
- ・鈴木委員 [交通計画]
- ・上原委員 [ランドスケープ、グリーンインフラ]

交通事業者へのヒンリング・・・詳細は右ページに記載

- ・アップルキャブ、アルピコ交通、飯田タクシー、伊那バス、信南交通

※50 音順

関係機関協議 (主な協議・調整事項)・・・詳細は右ページに記載

- ・JR 東海 (南北道路、高架下空間)
- ・長野県都市・まちづくり課 (都市計画決定、交付金等)
- ・長野県飯田建設事務所 (土曾川横断道路、調整池、建築計画)
- ・井水管理組合 (用水の利活用)

など

第 7 回学識者専門委員会 (10/2)

- ・基本設計プランについて
- ・デザインノートについて

第 4 回リニア駅周辺整備デザイン会議 (10/16)

第 3 回デザイン会議以降の関係機関協議等の状況

関係機関	実施日	調整事項	結果概要
J R 東海	6 月 19 日 7 月 27 日 9 月 21 日	○高架下空間の範囲について ○常時、車両通行が可能な高架下接続道路について ○荷捌きスペースの位置について ○高架柱スパンについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J R より飯田市が利用可能な高架下の範囲を提示。</li> <li>・ 常時、車両通行が可能な北口駐車場と南口駐車場を高架下で接続する道路の整備の可能性について協議し、困難との回答。</li> <li>・ 乗降場の利用に支障がない位置に荷捌きスペースの配置が可能か協議し、概ねの方向性を確認。</li> <li>・ 高架下利用可能範囲において高架柱スパンの拡大が可能か協議し、リニアの構造上の制約が大きく困難と回答。</li> </ul>
長野県 都市・まちづくり課	6 月 25 日 7 月 26 日	○都市計画決定 ○都市再生整備計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通広場については、東西道路に付帯する施設として決定を行う方針。</li> <li>・ 都市再生整備計画で検討する方針。</li> </ul>
長野県 飯田建設事務所	7 月 11 日 9 月 13 日	○土曾川横断道路について ○分棟型の魅力発信施設について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画に対して協議、了承。引き続きの協議として、国道 153 号との調整及び土曾川の流下能力の確認等。</li> <li>・ 道路法と建築基準法等の整理のなかで、適用制度の継続協議を確認。</li> </ul>
交通事業者 ・アップルキャブ ・アルピコ交通(株) ・(有)飯田タクシー ・伊那バス(株) ・信南交通(株)	8 月 2 日 8 月 8 日 9 月 6 日	○乗降場について ○待機場について ○待合所、乗車券売場について ○改札からの乗換について ○今後の二次交通について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗降場の台数は計画台数で了承。バスは北口に集約した方が判り易いと要望。</li> <li>・ 多目的空間の位置は計画位置で了承。将来の需要が未知数のため、多目的空間を利用できる計画が希望。バスは、観光バスの乗降場を含めて 6～10 台必要で、観光シーズンに集中した場合は多目的空間を活用して運行することは可能。</li> <li>・ 待合所は共用とし、乗車券売場とともに高架下空間に配置する計画で了承。</li> <li>・ 県道市場桜町線とコンコースの高さの関係から、北口交通広場を東端に配置する計画で了承。改札から乗降場までは段差が無い整備を希望。</li> <li>・ 現在の路線バスの運行を継続していくことは全国的に難しい状況となっており、リニア開業時に路線バスという形態が基本インフラとして現状をベースに考えるのは難しい。新たな枠組みで二次交通の検討が必要。</li> </ul>
井水管理組合	10 月 12 日	○用水の利活用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅周辺整備区域内に、井水を活用した空間整備を行う方針を確認。</li> <li>・ 維持管理方法については、継続協議が必要。</li> </ul>

## 『リニア駅周辺整備における各種施設での事業に関する意見交換会』を開催します！

飯田市 リニア推進部

飯田市では、リニア駅（飯田市上郷飯沼）周辺区域への設置を検討している各種施設について、この施設等を活用し事業を行いたい方を対象として意見を伺い、官民連携の導入可能性及び導入手法、施設整備方針等（以下「導入可能性等」という。）について検討を進めるため、駅周辺整備の検討状況をご説明するとともに、民間事業者の皆さんのご意見やアイデアをお聞きする意見交換会を開催します。以下及び別紙のご説明をご覧の上、是非ご参加ください。

- 日 時：平成30年11月21日（水曜日） 13：30～16：30（予定）
- 場 所：飯田市役所 C棟3階 C311～313号会議室
- 対象者：リニア駅周辺の各種施設を活用した事業への参画に関心・意欲のある民間事業者または民間事業者のグループ  
（飲食、物販、エネルギー、農林業、アウトドア、地域・情報サービス等）  
（1事業者5名以内）
- 内 容：(1) リニア駅周辺整備検討状況の説明（設計チーム）  
(2) 参加者からのご意見・アイデアの発表（1事業者5～10分程度）  
※参加者数により時間を調整します。  
※参加にあたり資料の準備（事前提出）をお願いします。（下記「注意事項」参照）  
(3) 全体での意見交換
- 申込方法：参加申込書をEメール又はFAXで飯田市リニア整備課まで提出してください。
- 申込期間：平成30年10月16日（火）～11月12日（月）17：00まで
- 注意事項：(1) 申込みに際しては、次ページの「ご説明」をお読みください。  
(2) 発表内容は、①リニア駅での事業化アイデアの提案、②リニア駅のビジョン提案（駅周辺とまちとのつながり、来訪者や地元の方がどのようなサービスを求めているか等）のどちらかまたは両方としてください。  
(3) 発表の趣旨を簡潔にまとめた資料（様式自由）を2日前までに提出してください。（スライド使用可）  
(4) 内容のうち、(2)参加者からの発表、(3)全体での意見交換については非公開としますが、意見交換会の概要については飯田市ホームページ等で公表を予定しています（事業者名は非公開）。  
(5) 意見交換会には、学識者、本市委託業務『リニア駅周辺整備基本設計業務』の受託者による設計チームが同席する予定です。  
(6) 意見交換会への参加に要する費用は、参加事業者のご負担となります。
- お申込み・お問合せ先：  
飯田市 リニア推進部 リニア整備課 勝岡、木下  
TEL：0265-22-4511 内線3334 FAX:0265-22-5371  
E-mail：[linear-seibi@city.iida.nagano.jp](mailto:linear-seibi@city.iida.nagano.jp)

### 課 題

- ・魅力的な駅前にするためにほしい施設やサービスは？
- ・民間のノウハウや活力を活かして質の高いサービスを提供できる仕組みは？

### 事業者のアイデア

- ・こんなことができたらいいな！
- ・こんなことができそう！
- ・こんな方法がある！
- ・よし、任せとけ～～！

特色ある魅力的な駅前空間



# ご 説 明

## 今回の意見交換会の趣旨について

- ◆この意見交換会は、官民連携の導入可能性等の検討を今後進めていく皮切りとして、民間事業者の皆さんにリニア駅周辺区域整備の検討状況をご説明するとともに、リニア駅周辺区域に設置予定の各種施設を活用した事業のアイデアや駅周辺にどんな施設やサービスが求められるかなどのご意見をお聞きするものです。
- ◆下記の説明をご覧いただいた上で、皆さんのアイデア、ご意見をお聞かせください。

## 1 飯田市の検討経緯

- 飯田市では、リニア中央新幹線（2027年開業予定）の長野県駅（以下「リニア駅」という。）の設置に向けて、リニア駅周辺区域の整備の検討を進めています。

- 「リニア駅周辺整備基本構想」（平成27年（2015年）6月策定）

<https://www.city.iida.lg.jp/site/iida-linear/linearkoso.html>

### <4つの基本方針>

- ①来訪者の移動を支援する“高度なトランジットハブ”を形成する
- ②駅勢圏の拡大に向け、交通アクセス及びネットワークの強化を進める
- ③信州・伊那谷らしさを感じられる景観づくりを進める
- ④信州・伊那谷ブランドを強化し、発信する

- 「リニア駅周辺整備基本計画」（平成29年（2017年）6月策定）

<https://www.city.iida.lg.jp/site/iida-linear/linearkeikaku11.html>

### <駅周辺の4つの整備コンセプト>

- ①機能的でコンパクトな駅空間  
～ 高度なトランジットハブの形成によりスムーズな乗換えを実現する ～
- ②信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間  
～ 来訪者へのおもてなしを実現する ～
- ③自然との調和を目指した駅空間  
～ 豊かな自然環境に配慮し環境モデル都市飯田を実現する ～
- ④地域と一体化した駅空間  
～ 地域の一体化を実現する ～

### <整備区域内の主な施設>

- ①交通施設：○交通広場 ○パーク&ライド駐車場
- ②交流施設：○魅力発信施設 ○高架下空間 ○交流広場 ○コミュニティ広場

※各施設の整備方針は、別紙1「リニア駅周辺整備基本計画における各種施設の整備方針」を参照してください。

### <今後の整備の進め方>

『リニア駅周辺整備の事業実施の進め方や役割分担については、将来的な施設の運営・管理も含めて、民間活力の導入を視野に入れて検討を行います。

なお、今後の事業手法として、施設ごとに公募型プロポーザル方式やPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）方式などの導入の検討も行いながら進めていきます。』

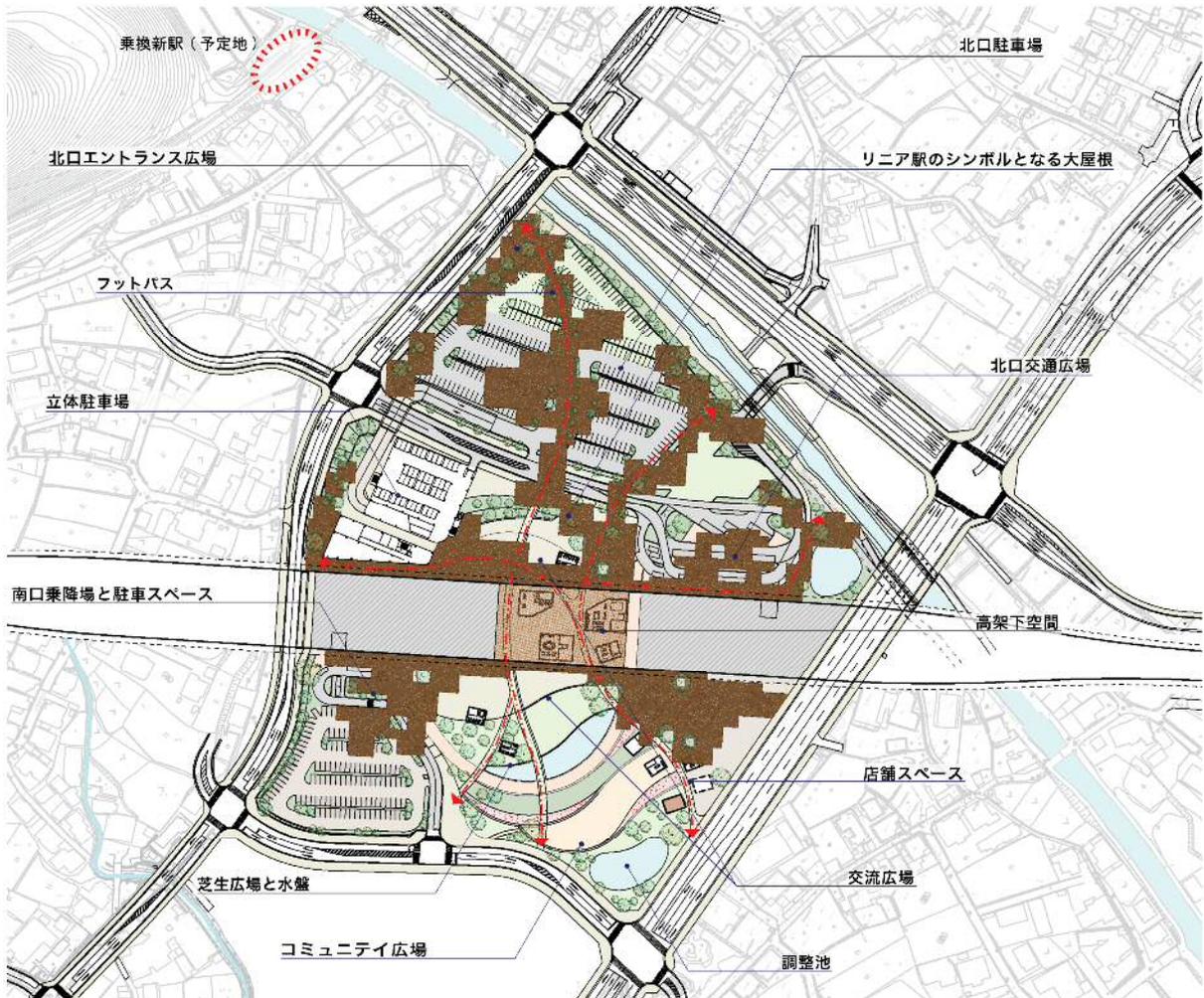
## 2 事業手法に係る基本的事項

### ■ リニア駅において民間活力を導入する場合の対象施設（想定候補）

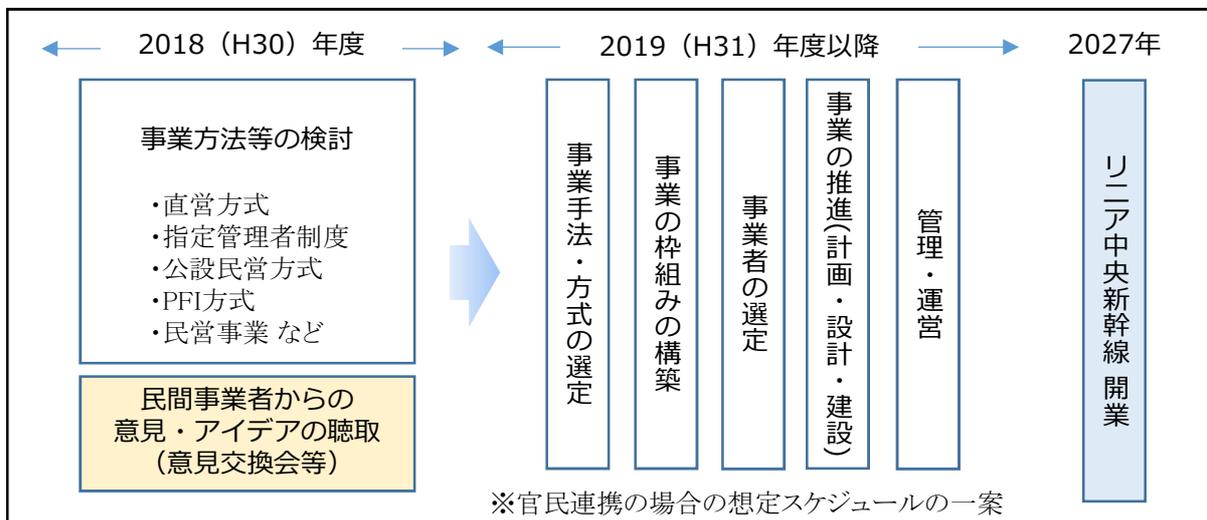
- ①パーク＆ライド駐車場 ②魅力発信施設 ③高架下空間 ④交流広場

### ■ 現在、「リニア駅周辺整備基本設計」の平成30年度の策定に向けて検討しています。

<現時点（10/16）での計画案>



### ■ リニア駅における事業手法の検討・導入に係る工程（概略案）



※現時点での想定であり、実際の時期や内容と異なることがあります。